

令和7年度第2回障スポ Connect 会議録

日 時 令和8年3月13日(金) 午前10時から11時半

場 所 府中駅北第2庁舎3階打合せ室

出席者 別添資料1(出席者名簿)のとおり

開会挨拶

■事務局

本日はお忙しい中お集まりいただき、また日頃より本市のスポーツ事業にご協力いただきありがとうございます。本会議は昨年度から立ち上げた会議体で2年目となります。年2回開催をしておりますが、本日は今年度の事業の振り返りを共有しつつ、各団体で抱えている課題等もあれば共有していただき、来年度以降に活かしていきたいと思っています。情報共有の場としてもご活用いただければと思っていますので、よろしく願います。

議事

議題1 出席者自己紹介

(資料1に沿って自己紹介)

議題2 令和7年度市取組の報告

(1)障害者福祉課の取組

■事務局

資料2に沿って障害者福祉課の取組についてご報告いたします。今年度も、障害のある方が身近な地域でスポーツに親しめることを目的に主に4つの事業を展開してきました。具体的には、スポーツを知るきっかけをつくる事業、人と人をつなぐ交流の場となる事業、利用機会を保障する事業、そして、情報共有の場というものです。

まず一つ目、障害者児スポーツ普及推進事業について報告します。

本事業は、障害のある子どもから大人までを対象に、スポーツへの関心を高めるとともに、参加のきっかけをつくる事業として実施してきました。本事業の大きな特徴は、府中市をホームタウン・マザータウンとして活躍しているプロスポーツチームと連携している点です。今年度も昨年に引き続き東芝ブレイブルーパス東京さん・FC東京さん・アルバルク東京さんの3チームと連携させていただきました。実際に身体を動かす「する」スポーツに加え、試合を「みる」ことや、プロスポーツ選手をはじめとしたチームへの親しみや愛着を持つことなど、スポーツへの多様な関わり方を提示できた点は本事業の成果だととらえています。こうした取組は、障害のある方のスポーツ参加の裾野を広げると同時に、スポーツタウン府中の推進にもつながる事業だと捉えています。

一方で、資料に記載のとおり、子ども世代、とりわけ中高生の新規参加者の確保は課題だと思っています。また、単発の体験にとどまらず、継続的な運動習慣につながる導線づくりが必要だと考えています。

二つ目として、軽スポーツ大会について報告します。

この事業は、競技性よりも、誰もが参加しやすい形で交流を生み出すことを目的として実施してきました。資料記載のとおり、今年度も例年同様、安定した参加があり、当日の一般参加も含め、多くの方にご参加いただきました。今年度は新たな取組として、ダンスの時間を設けました。地域の関係者やボランティアと協力しながら実施できた点は、本事業の強みだと考えています。一方で、準備や当日の運営に係る負担、天候への対応などの課題は感じています。地域資源のさらなる活用を通じて、持続可能な運営を検討していく必要があると考えています。

三つ目として、障害者向けプール開放事業について報告します。

本事業は、障害のある方が安心して利用できるよう、配慮と安全を前提とした利用機会を保障する事業として実施してきました。障害ゆえに一般の利用者がいると地域施設を使いにくいといった心理的なハードルがあるなかで、利用できる対象を絞って総合プールができる日を設けました。安心できる環境そのものを整えることで運動機会の提供につながることを示していると考えています。一方、近年では夏季期間において屋外での運動や熱中症対策についての課題もあることから、今後も関係部署や施設管理者と連携しながら、検討していく必要があると認識しています。

最後に、四つ目として、関係機関との連携や情報共有を行う場、障スポ Connect の事業についての報告です。昨年度に立ち上げたこの会議は、各事業の実践内容や現場での課題を共有することで、事業を横断した視点での意見交換が行っていただいております。関係者同士の顔の見える関係づくりが進み、共通課題や今後の方向性について認識を共有できた点は、大きな成果だと考えています。今後も、この場を活用して事業改善や新たな取組につなげていきたいと考えておりますので、引き続き事業を発展させるための重要な場として活用していきたいと考えています。

報告は以上となりますが、ご質問ありませんでしょうか。

(質問なし)

(2)スポーツタウン推進課の取組

■スポーツタウン推進課

資料3に沿ってスポーツタウン推進課の取組をご報告します。障害者スポーツ体験イベントについては、みんなのスポーツ DAY の一環として日吉体育館で実施したイベント、12月14日のWaiWaiフェスティバルの一環としてけやき並木で実施した障害者スポーツ体験イベント、2月7日に実施した日本財団提供プログラムを実施したイベントがございます。またポッチャ普及では、ポッチャ大会並びにポッチャ教室・講座の実施を行ったほか、ポッチャ体験の場の提供として軽スポーツ大会等でのブース出展を行いました。実施の目的

は子どもから大人までが、障害者スポーツを通じて興味や関心を喚起すること。そして、障害者スポーツを通じた相互理解を促進して、障害者を含む多様な市民がスポーツを親しむきっかけづくりを創出することを目的としています。

今年度の実績は記載のとおり、参加人数を記載しております。良かった点は車いすバスケットボールをメイン種目として選定したが、パリパラリンピック出場の選手と登用したことで、参加者がレベルの高いトップアスリートと交流が図れたことと、市としても選手との関係性が築けた点がよかったと思っています。また、あすチャレ運動会は当事者の参加が半数ほどあり、インクルーシブな事業となりました。また、ボッチャの事業では、大会等に向けて各種イベントで体験を行うことができ気運醸成に繋がったと思っています。

見えてきた課題として、どのイベントでも集客面に課題はあるため、PRの方法は工夫の必要を感じている。また、当事者の方々が参加するうえで、事前にどのような特性があるのか、必要な配慮はなにか、とヒアリング等を行ったうえで運営にいかすことが必要だと感じました。イベントに選定する施設についても、バリアフリー環境などを考慮すべきだと思っています。来年度に向けては、幅広い層の参加を積極的に呼びかけることで、当事業の目的である、障害者含む多様な市民がスポーツに親しむきっかけづくりの創出、を達成するために必要だと思っています。また当日の参加者の動線確認を十分行うことで、障害の有無に関わらず誰もがスポーツを楽しめる環境づくりになるのではと考えていますので、来年度に活かしていきたいと思っています。

■都障協

イベントに参加された障害者当事者の、障害種別についてわかれば教えてください。

■スポーツタウン推進課

あすチャレ運動会は知的障害8割、身体障害2割程度だったと記憶しています。

■都障協

ボッチャの普及啓発について、出前講座も実施されているとあるが、こういった場所にどのような人が出張しているのでしょうか。

■スポーツタウン推進課

令和7年度については、けやき教室という教育委員会が設置する所属する学校への登校が難しい児童等の支援の場にて、スポーツ推進委員がボッチャの出前講座を伺いました。また成人の知的障害向けの余暇活動の場として設置しているあすなろ教室にも伺った。そのほか手話サークルからの依頼を受け、スポーツ推進委員の派遣を行いました。今年度ではないですが、心身障害者福祉センターへの派遣実績もあり、都度依頼を受けてスポーツ推進委員の調整を行っているところです。

■都障協

手を挙げた団体や施設に何う形式であるようなので、福祉施設から手が上がれば定期的な運動になり良い取組であると感じました。

議題3 各団体の取組の共有

■事務局

事前にお知らせのとおり、ご出席していただいた皆様から、各団体が参加したもの・取り組んだものなど、市主催のものに限らずご報告をお願いします。この報告から、ご自身の活動のヒントにしていだければと思っています。取り組み内容だけではなく、感じている課題なども含めてお話いただくと助かります。

■福祉作業所

施設で行っていることは、毎朝の体操を心身障害者福祉センターからいただいたビデオを見ながら行っている。月1回運動の取組をしており、施設内での風船バレーを行っているほか、市の取組にはなるべく参加するようにしている。サッカーに参加したのと、来週アルバルクの体操教室にも参加予定です。また、作業所等連絡協議会では今年度ボッチャ大会を主催して、スポーツ推進委員さんにもサポートいただいたので、来年度以降もぜひ続けていきたいと思っています。

ここ最近課題と感じているのは、障害者向けプール開放について、利用者の年齢層が若い方も増えてきて、プールに行きたいと希望する方も増えている。ただ、希望者が増えると、職員数が足りないと感じている。施設内での支援とプール内での支援とでは、必要な職員数が大きく異なるため、当日サポートしてもらえる人がいると変わるのではと思っています。必要なサポートは、着替えるところから始まるので、その部分を担える方や、流れるプールで付き添える方などがいると良いなと思っています。なるべく一緒に運動できる方のほうが良いのではと感じる部分です。

■都立府中けやきの森学園

肢体不自由部門であれば、マンツーマンでの入水になります。2コマの授業を確保していても、実際の入水時間は15分程度で交互に行っています。時間は限られていますが、プールの体験は貴重であるため皆さん希望されています。基本的には学校の教員がすべて対応しますが、一部教育実習生がいる場合にはご協力いただくこともあります。学校としても人手の部分は苦慮しているところです。

■都障協

情報提供として、公共施設の事例として監視員を増やしている自治体もあれば、地域の水泳連盟さんにもご協力いただき、事前に研修などを踏まえたうえでプールでの見守りを担っていただいている自治体もあります。

■福祉作業所

私どもの施設では、コロナ前まではプール開放を施設で参加していた。今は施設での参加はしていないが、楽しみにしている利用者も多くおられることから、実施日などは周知していて通所を休んで参加することも認めている。

日頃の運動は、毎朝朝礼の際にラジオ体操かストレッチをしている。月1回ヨガの先生をお呼びしているほか、年1回文化センターを借り、2施設合同で顔を合わせて、いつもできない大きな動きをするなどして楽しんでいきます。また、年3回行っている防災訓練では府中の森公園に避難する練習をしており、そのついでに公園で体を動かして帰るのが定例になっている。公園では、過去に東京都の事業を通じて教えてもらった動きをみんなで行っている。そのほか市の事業には、ラグビーに参加しているが、サッカーは今年参加できなかった。

課題として、ラグビー体験に参加した際に、他の事業所の方にきいたのは、施設側で参加できる人を選んできているという実情を知った。当施設は全員で参加したが、誰でも来られるイベントであることをもう少し謳っていれば、違ったのかなと思いました。せっかくの貴重な体験ができないままの方がいるのはもったいないかなと感じます。施設側では、指示がとおる人を選んだところ、希望者を募ったところなど、理由はそれぞれだったようです。いつもと慣れない場所で集団行動から外れる人は出てしまうので、そこに人員はかかってしまうのかなと想定されます。施設側にヒアリングをすれば、もう少し具体的な課題も見えてくるかもしれません。

■福祉作業所

施設側としては、利用者が2か所に分かれてしまうと、いつも以上に人手が必要になってしまう。当施設でいうと、車が1台しかないため、車に乗りきれぬ人数に希望者から絞る必要がでてしまう。ラグビーは人気なので、現地集合で参加してくれる利用者もいます。

■都障協

スポーツボランティアは、スポーツの現場であれば安全管理に特化してサポートできます。ただ、利用者の着替えや排せつなどのサポートは施設職員にしてもらう必要があるため、ボランティアの役割分担は必要になります。自治体によっては、スポーツボランティア向けの研修を座学だけではなく実地研修を行う事例もあります。

■福祉作業所

施設の取組について、毎週月曜日に運動の時間を1時間設けており、ウォーキング・体操・ボッチャなどを行っています。非常勤の職員がプログラムを作成しています。毎朝ラジオ体操、お昼にはストレッチ、一部利用者にも YouTube など参考動画に動いており、家でも取り組めるよう工夫しています。今年は府中市のボッチャ大会には出場せず、福祉作業所

等連絡会主催の大会に出場させてもらいました。ここ最近利用者のなかで、ポッチャに対する熱が下がってきているように感じています。来年度は体育館を半日借りて、普段とは違う環境でポッチャや卓球などができればと企画しています。

人手の問題は当施設もあり、送迎などの負担もあるため参加するイベントを選んでしまっているところもあります。希望者が少ない場合には参加そのものを諦めることもありました。

作業所連絡会に対して、年間予定をあらかじめ共有いただければ、年間の計画に入れ込めるのではないかと思う部分もあります。また、福祉作業所等連絡会のみで周知をしているかと思いますが、属していない施設(放課後等デイサービス、就労移行支援事業所、グループホーム、施設入所支援など)が漏れてしまうことはもったいないように思います。市内のなかで情報が届く施設とそうではない施設とで、差がでてしまうのは懸念する部分です。

■事務局

放課後等デイサービスであれば、土曜日に開所しているので、イベントにお声がけすることは可能だと思っています。児童発達支援・放課後等デイサービスの事業所連絡会もありますが、開催回数が多くないように認識しているので、どのように周知するかは検討が必要だと思っています。

■トップチーム(東芝)

障害者福祉課との連携により、週末に子ども向け・平日に福祉作業所向けのラグビー体験を行っています。これには選手2~3名参加しており、簡単なラグビーのプレー、パスやキック、トライやラインアウトを一通り経験してもらうようにしています。体験のほか、ラグビー観戦の企画として、障害のある方含め試合を実際に観戦してもらうというイベントとしています。体験の場では、その場で活発に動いている方だけではないですが、皆さんその場を楽しめてもらえているのではと思っています。

課題としては、観戦企画の一環として、試合とは別日に事前にラグビーのルールなどを知ってもらうための機会としてレクチャーの場を設けていますが、開催時間等の関係もあるのか参加人数が少ないことが課題と感じています。

■福祉作業所

選手の方に持ち上げてもらう動きは、利用者の方々に大変人気でした。その場で遠慮してしまい経験できなかった方もいましたが、後々悔しがっていました。その写真を嬉しそうに見ています。

■福祉作業所

選手の方々と一緒に動けるのは皆さん大変喜んでおり、毎回選手の方と撮らせていただ

いた記念写真を施設に飾っています。来所した方に尋ねられることもあり、こういった取り組みを周知することにもつながっています。

■事務局

現役選手に参加していただけるのは大変貴重なイベントで、子ども向けの体験では、子どもだけではなく親御さんも一緒に楽しんでいる様子が印象的です。観戦企画については、市も同様に課題を感じているので、来年度改善していきましょう。

■トップチーム(アルバルク)

今年もチアリーダーによるダンス教室を実施予定でおり、来週に計画をしています。当日はチアリーダー2名により準備体操含め車いすの方向けに上半身だけで動ける内容なども準備をしています。参加者も多いようなので、全員でやるパターンや、グループにわけ披露しあうパターンなども検討しているところです。

■トップチーム(サントリー)

障害者福祉課との連携は現状ないところですが、けやきの森学園さんとは4年間程度連携した取組を行っております。障害の程度を軽度・中度・重度に分けたうえで、先生方にもサポートをしていただきながらラグビー体験としてボールを使った運動を一緒に行っています。その後選手によるデモンストレーション、サイン会や資料配布をしています。当日は選手4名ほど、その他スタッフも8名以上は動員するようにしています。その後、生徒の皆さんにはホストゲームに観戦していただく機会も設けています。

この取組のほか、サントリー全体では障害者スポーツの支援に力を入れており、全国的なスポーツ支援としてアスリートへの奨励金など長年続けているところです。CSR推進の一環として、障害者の職場体験として試合の場で就労を体験してもらうということも行っています。このように全社的に障害者スポーツを推進しているところですので、今後府中市との取組もできたらと考えております。

■スポーツタウン推進課

サントリーさんの取組として、他自治体との事例なども紹介していただきたいです。また、担当部署の方とお話できる機会を作っていただけると嬉しいです。

■トップチーム(サントリー)

東北での取組は長年実績があるようです。また、担当部署とつなげる場を設けることは可能です。やってみなはれの精神なので、リクエストに応じて具体化することはできるかと思えます。

サントリーチャレンジド・スポーツのホームページを見ていただくと色々知っていただけるのではと思いますが、車いす操作スキルの講習会や、車いすバスケの指導なども定期

的に行っています。パラリンピック出場選手が社員にいますので、全国的な啓蒙活動も行っています。

■スポーツ推進委員

ボッチャの普及推進に多く関わっております。ボッチャ大会に参加しづらいという話をいただき、レクリエーションとして楽しみたい方と競技性を楽しみたい方が混在していることが理由かと思っています。ただ、先ほどお話があったとおり今年には作業所主催のボッチャ大会を開催することはひとつ成果だと思えます。体育館半分くらいの参加人数であったので、もう少し増えていただいても問題ないと思っています。今年の関わり方が少し中途半端になってしまったように感じているため、来年度以降はもう少し準備をしっかりとするなどの改善ができると思えます。

スポレクボッチャについてはレクリエーションの位置づけで行うよう変更し、表彰なども行わないようにしています。ボッチャ大会については、市町村大会の選考会を兼ねるという位置づけなので、参加しづらさを感じる方がいるのだと思います。大会のキャパシティもあることから、すべての方が参加しやすいものになっていないことは課題としてあります。

スポーツ推進委委員は日中仕事をしているものも多く、平日の要望に応えられない場合もあります。ただ、要望があればなんとか人を集めて会議室などでも出張講座を実施することはできます。ボッチャは誰でもできる手軽なスポーツなので、引き続き要望には応えていきたいと思っています。現状、ボッチャ以外のパラスポーツに関する出前講座に要望は聞いたことはありません。

■都立府中けやきの森学園

学校全体スポーツをみんなで行う、などの取組は大所帯のため難しいが、知的障害部門を対象としてラグビー体験をサントリーさんにやっていただくなどの取組は普段できない経験で貴重だと思っています。部活としては、パラスポーツ部がありボッチャなどは府中市の大会にも参加しています。そのほかeスポーツの取組も行っており、大会で活躍している方をお呼びするなどして、肢体不自由の方でも参加できるように工夫をしています。知的障害の部門であれば、都の大会の上位に入賞するものもいるなど実績を残しています。

先ほど中高生の参加について課題があがっていたところですが、移動手段、現地でのサポートなど各家庭の不安や負担もあるかなというのが現状です。学校で協力できる部分は、教育課程のなかで単発の体験会を実施していただくことで、卒業後含めて実践できるきっかけづくりになるかなと思ったところです。そのような機会があると、卒業後の健康面・体力づくりに繋がると思っています。

■都障協

企業のCSRの取組をきいて、都障協も障害のある方々をスポーツクラブとつなげる取組をしています。またアスリートの方々が遠征する際に、遠征先で地域の団体等とつなげる支援も行っているところです。

当会としては、東京都障害者スポーツ大会を5月に行うことから、現在募集を行っています。障害のある方々の全国大会に繋がる大会もあり、例えば参加者の幅が広いと不安に思うが、サッカー経験のある障害のある方が集まる場があるのであれば、そういった場にプロチームが関わると良い協働事業になるのではと感じた部分です。

移動に関わる課題は、具体的に取り組んでいるところもあれば、課題が解消されないところもあります。視点をかえて、集まってもらうだけでなく、指導者が実際に赴くことで解決できるものもあるので、参考にいただければと思います。そのほか、イベントに行くだけでなく、日常的に自分たちが体を動かしたいときに行ける場所を整備する、という考えも必要なのではと思いました。

本日サポートがあればという声がよく聞かれたが、社協やボランティアチームとの連携なども取れていることから、サポート側を育てるという視点で充実できる部分があるのではないかと思います。

■東京都

デジタル技術を活用した障害のある方のスポーツ参加への取組を紹介します。分身ロボットを活用するのですが、タブレット越しで操作できるため、実際にタブレットを通じたコミュニケーションやスポーツ参加が実現できます。実際に、世界陸上の場でも活用され、福祉施設の方が遠隔でロボットを操作して、国立競技場で走るという体験ができました。スポーツ観戦の場においても活用ができ、選手との交流がタブレットを介してできたことが良かったなども感想も上がっているところです。府中市でもプロチームとの連携が多いことから、活用できるのではと思いました。そういった取組への補助も引き続き行っております。

議題4 来年度の予定

■事務局

来年度のスケジュール案を提示しております。秋頃から各種教室を実施する予定であるため、7～8月頃に障スポ Connect の第1回を開催します。サッカー教室については、可能であれば場所を変更したいと考えており、車いすの方でも参加できるように地域体育館などに移したいと考えているので、今後チームとも調整したうえでご連絡させていただきます。ラグビー体験と体操教室については、例年通りの時期で実施する予定です。スケジュールにはないですが、今年度第1回の会議で検討した動画制作についても行いたいと考えております。年度末にはまた障スポ Connect の場にて各種取組の報告等を行う予定でおりますのでご承知おきください。

議題5 課題共有・意見交換

■トップチーム(アルバルク)

障害者向けの取組を紹介させていただきます。東京都の事業として、障害のある方が試合の場にて職場体験ということでスタッフとして従事していただき、その後観戦できるという取組を行っています。年齢制限もなく、大人の方も従事可能であるが、大人数の受け入れは難しく10名程度で行っています。府中市とも連携ができるのではと思っています。

■福祉作業所

様々なチームが同様の取組を行っており、別のチームから声掛けがきたこともあります。その時は施設で従事した方はいませんでした。

■都立府中けやきの森学園

学校側は、就職に向けた職場体験のみで、スポーツ分野の体験には参加したことはありません。高等部の場合には雇用に繋がるという実習がメインとなります。

■事務局

たくさんのご意見等ありがとうございました。来年度の事業に活かしていきたいと思えます。以上をもちまして障スポ Connect を終了いたします。